

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.6.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

34:1 モーセはモアブの草原からネボ山、エリコに向かい合わせのピスガの頂に登った。主は、彼に次の全地方を見せられた。ギルアデをダンまで、

34:2 ナフタリの全土、エフライムとマナセの地、ユダの全土を西の海まで、

34:3 ネゲブと低地、すなわち、なつめやしの町エリコの谷をツォアルまで。

34:4 そして主は彼に仰せられた。「わたしが、アブラハム、イサク、ヤコブに、『あなたの子孫に与えよう。』と言って誓った地はこれである。わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたはそこへ渡って行くことはできない。」

34:5 こうして、主の命令によって、主のしもべモーセは、モアブの地のその所で死んだ。

34:6 主は彼をベテ・ペオルの近くのモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまで、その墓を知った者はいない。

34:7 モーセが死んだときは百二十歳であったが、彼の目はかすまず、気力も衰えていなかった。

34:8 イスラエル人はモアブの草原で、三十日間、モーセのために泣き悲しんだ。そしてモーセのために泣き悲しむ喪の期間は終わった。

34:9 ヌンの子ヨシュアは、知恵の霊に満たされていた。モーセが彼の上に、かつて、その手を置いたからである。イスラエル人は彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行なった。

34:10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼を主は、

顔と顔とを合わせて選び出された。

34:11 それは主が彼をエジプトの地に遣わし、パロとそのすべての家臣たち、およびその全土に対して、あらゆるしるしと不思議を行なわせたためであり、

34:12 また、モーセが、イスラエルのすべての人々の目の前で、力強い権威と、恐るべき威力とをことごとくふるうためであった。

申命記はモーセによって書かれましたが、さすがに自分が死んだ様子を記すことはできません。これらは後の者が（おそらくはヨシュアなどが）、申命記を完成されるために付け加えたものです。ここもまた聖霊によって書かれたもので、申命記が神の目的を持って書かれたものであるということが分かります。

モーセは主から約束の地を見せられました、「わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたはそこへ渡って行くことはできない。」と言われました。彼は120歳になってはいましたが、「目はかすまず、気力も衰えていなかった」ので、なぜ自分がこの世を去らなくてはならないのかと思ってもおかしくありません。

それでも、彼は神を恨むことも、民の不従順のせいにするすることも、自分の行いを後悔することはありませんでした。人間は完全ではありませんが、主のなさることは最善だからです。

実は約束の地とは言っても、それは天の永遠の住まいの影にしか過ぎないのです。その証拠に今でもこのカナン之地ではイスラエルとパレスチナとの領土問題が続いています。モーセは完全な解決であり、安息であり、喜びであるところの神のもとに行くのですから、それは最善です。

またその時も最善だったと思われず、この後ヨシュアが指導者となってカナン之地を勝ち取り、そこで国としての基礎を築いたことを考えると、リーダーが変わることで成功したといえるでしょう。何より重要なことは、ヨシュアがモーセに従順であったということです。モーセ自身が自分に従順であっても意味がありません。後継者がモー

セに、すなわちモーセを通して与えられた主の御心に従順であったということが大切です。その従順さこそがイスラエルに必要であったのです。

主の最善の判断と時に信頼しましょう。自分の願いよりも主の御心を悟り、本当の希望を見出しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



127 都上りの歌。ソロモンによる

127:1 主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなし。

127:2 あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなし。主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。

127:3 見よ。子どもたちは主の賜物、胎の実は報酬である。

127:4 若い時の子らはまさに勇士の手にある矢のようだ。

127:5 幸いなことよ。矢筒をその矢で満たしている人は。彼らは、門で敵と語る時にも、恥を見ることがない。

ソロモンは王宮に住み、大神殿を建て、多くの事業に成功し、巨万の富を築きました。その彼が、「主が建てるのでなければ…」 「主が守るのでなければ…」 むなしいと明言しているのです。それは確かなことでしょう。ましてや私たちのような小さな普通の人生ならば、主も御手でやっていたかないと、むなし結果に終わってしまうのは目に見えています。

家庭も同じで、子どもたちの成長も主の御手によります。子どもには無限の可能性があるので、どこまでも飛んで行って勝利をもたらす「矢」のようです。

家庭を、家族を、そして家も、またそれらを育てる人生も、主に求めて祝福していただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



128 都上りの歌

128:1 幸いなことよ。すべて主を恐れ、主の道を歩む者は。

128:2 あなたは、自分の手の勤労の実を食べるとき、幸福で、しあわせであろう。

128:3 あなたの妻は、あなたの家の奥にいて、豊かに実を結ぶぶどうの木のようなのだ。あなたの子らは、あなたの食卓を囲んで、オリーブの木を囲む若木のようなのだ。

128:4 見よ。主を恐れる人は、確かに、このように祝福を受ける。

128:5 主はシオンからあなたを祝福される。あなたは、いのちの日の限り、エルサレムの繁栄を見よ。

128:6 あなたの子らの子たちを見よ。イスラエルの上に平和があるように。

妻と子どもたちの祝福が歌われています。その条件は「主を恐れ、主の道を歩む者」ということです。主に従う者には、主からの権威が与えられます。その正しい威厳によって家庭を治めることができれば、ここにあるような幸いは「食卓」が続くのです。

父親は主を恐れましょう。妻や子どもたちは夫の言動で主の御心にかなうものは従いましょう。また若い人々は、そのような父や妻になるように、今から主に従う祝福を経験していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



129 都上りの歌

129:1 「彼らは私の若いころからひどく私を苦しめた。」さあ、イスラエルは言え。

129:2 「彼らは私の若いころからひどく私を苦しめた。彼らは私に勝てなかった。

129:3 耕す者は私の背に鋤をあて、長いあぜを作った。」

129:4 主は、正しくあり、悪者の綱を断ち切られた。

129:5 シオンを憎む者はみな、恥を受けて、退け。

129:6 彼らは伸びないうちに枯れる屋根の草のようになれ。

129:7 刈り取る者は、そんなものを、つかみはしない。たばねる者も、かかえはしない。

129:8 通りがかりの人も、「主の祝福があなたがたにあるように。主の名によってあなたがたを祝福します。」とは言わない。

イスラエルの苦難について、「イスラエルは言え。」と、その事実を明確に意識するようにと命じられています。それは「彼らは私に勝てなかった。」と勝利の宣言を際立たせるためです。

私たちも、過去の悲しい出来事がなかなか忘れられないということがありますが、それは時に勝利を際立たせるためであるのです。どんな過去があっても主にあって乗り越えられないことはないという事実を知りましょう。

神に選ばれた者、すなわち旧約においてはシオン（イスラエル）、新約においてはクリスチャンにも敵はいますが、それを憎む者はみな、「恥を受けて退け」られるのだという、神様の恵みを信じましょう。

ですから、主に頼り、主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



130 都上りの歌

130:1 主よ。深い淵から、私はあなたを呼び求めます。

130:2 主よ。私の声を聞いてください。私の願いの声に耳を傾けてください。

130:3 主よ。あなたがもし、不義に目を留められるなら、主よ、だれが御前に立ちえましよう。

130:4 しかし、あなたが赦してくださるからこそあなたは人に恐れられます。

130:5 私は主を待ち望みます。私のたましいは、待ち望みます。私は主のみことばを待ちます。

130:6 私のたましいは、夜回りが夜明けを待つのにまさり、まことに、夜回りが夜明けを待つのにまさって、主を待ちます。

130:7 イスラエルよ。主を待て。主には恵みがあり、豊かな贖いがある。

130:8 主は、すべての不義からイスラエルを贖い出される。

131 都上りの歌。ダビデによる

131:1 主よ。私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや、奇しいことに、私は深入りしません。

131:2 まことに私は、自分のたましいを和らげ、静めました。乳離れた子が母親の前にいるように、私のたましいは乳離れた子のように御前におります。

131:3 イスラエルよ。今よりとこしえまで



主を待て。

詩人は「深い淵から」主を呼び求めると言っています。余裕があれば信仰生活がしっかりできるだろうと言う人もいますが、実際は逆です。余裕がないから神様を呼び求めるのです。そして呼び求める日常が信仰生活なのです。

主を待つことで、信仰を強められましょう。

「私の心は誇らず、私の目は高ぶりません。」とあります。信仰が熱心であると、自分は分かってきたという気持ちになりやすいものです。そこで詩人はもう一度振り返って、自分のそのような高ぶりに気づいたのでしょうか。

私たちの成長とはその繰り返しかも知れません。何も分からないままでは、成長はありません。しかし分かったと思うと、主の御心はさらに高いところにあるものです。

乳離れたように少しは成長しながらも、しかし自分はあくまでも幼子であると自覚しながら、理解の面においても、母のような主の慈しみに頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



132 都上りの歌

132:1 主よ。ダビデのために、彼のすべての苦しみを思い出してください。

132:2 彼は主に誓い、ヤコブの全能者に誓いを立てました。

132:3 「私は決して、わが家の天幕には入りません。私のために備えられた寝床にも上がりません。

132:4 私の目に眠りを与えません。私のまぶたにまどろみをも。

132:5 私が主のために、一つの場所を見だし、ヤコブの全能者のために、御住まいを見いだすまでは。」

132:6 今や、私たちはエフラテでそれを聞き、ヤアルの野で、それを見いだした。

132:7 さあ、主の住まいに行き、主の足台のもとにひれ伏そう。

132:8 主よ。立ち上がってください。あなたの安息の場所に、おはいりください。あなたと、あなたの御力の箱も。

132:9 あなたの祭司たちは、義を身にまとい、あなたの聖徒たちは、喜び歌いますように。

132:10 あなたのしもべダビデのために、あなたに油そそがれた者の顔を、うしろへ向けないでください。

132:11 主はダビデに誓われた。それは、主が取り消すことのない真理である。「あなたの身から出る子をあなたの位に着かせよう。

132:12 もし、あなたの子らが、わたしの契約と、わたしの教えるさとしを守るなら、彼らの子らもまた、とこしえにあなたの位に着くであろう。」



132:13 主はシオンを選び、それをご自分の住みかとして望まれた。

132:14 「これはとこしえに、わたしの安息の場所、ここにわたしは住もう。わたしがそれを望んだから。

132:15 わたしは豊かにシオンの食物を祝福し、その貧しい者をパンで満ち足らせよう。

132:16 その祭司らに救いを着せよう。その聖徒らは大いに喜び歌おう。

132:17 そこにわたしはダビデのために、一つの角を生えさせよう。わたしは、わたしに油そそがれた者のために、一つのともしびを備えている。

132:18 わたしは彼の敵に恥を着せる。しかし、彼の上には、彼の冠が光り輝くであろう。」

ダビデが自分のことを第3者に表しているようです。ダビデは主への熱心さを表し、その決心を固くしています。「ヤコブの全能者のために、御住まいを見いだすまでは」自分だけ安らぐことなどしないという決心です。

その時主は「これはとこしえに、わたしの安息の場所、ここにわたしは住もう。」と言ってください。私たちの生活、スケジュール、人間関係、財産の使い方において、主の場所を作り出しましょう。必要なときにその決心をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



133 都上りの歌。ダビデによる

133:1 見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんとというしあわせ、なんとという楽しさであろう。

133:2 それは頭の上にそそがれたとうい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れてその衣のえりにまで流れしたたる。

133:3 それはまたシオンの山々におりるヘルモンの露にも似ている。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。

134 都上りの歌

134:1 さあ、主をほめたたえよ。主のすべてのしもべたち、夜ごとに主の家で仕える者たちよ。

134:2 聖所に向かってあなたがたの手を上げ、主をほめたたえよ。

134:3 天地を造られた主がシオンからあなたを祝福されるように。

兄弟とは肉親もそうですが、クリスチャンである兄弟姉妹、また民族を超えた間柄のことであるとも言えるでしょう。それは聖霊の油注ぎによって与えられる愛で可能です。またそれは豊かな実を与えるヘルモン山の露のようでもあります。

教会で兄弟姉妹の交わりに感謝しましょう。また交わりをさらに楽しいものにしましょう。

主の祝福をいただくために、ここで勧められているのは単純なことです。「手を上げ、主をほめたたえよ。」という、賛美の姿勢です。学びも大切、奉仕も大切、献金も交わりも祈りも大切であることは言うまでもありません。そしてそれらの動機がごこ

から来るかと言えば、主がすばらしい方であるという偉大な事実から来るのです。ならば、そのすばらしさを表すことは、私たちの行動の第一歩です。

主をたたえることから始めましょう。それを単純に表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

